

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」

小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」

新しい人に成る為に



主任司祭 遠山満

心理学の用語に、「反動形成」と言う言葉があります。これは、私たちの生活の中でしばしば使われる言葉、“リバウンド”と同義です。実際、私達は、何かを目指して頑張っている、途中で堪えられなくなり、以前あった状態よりも悪くなってしまったりすることがあります。また私たちは、リバウンドを何度も経験すると、理想を目指して生きること自体、空しいことではないかと思えるようになります。この事は、私達が個人的にも、また共同体としても考える必要のあることだと思います。

1987年、日本の教会で、第一回福音宣教推進全国会議が行われました。その時に出された課題の一つは、「信仰と生活の遊離」でした。この問題は私達が今も抱えている課題の一つです。私たちは、この課題に、どのように取り組んでいけば良いのでしょうか。

聖書の中に、次のような言葉があります。「私は主によって強く勧めます。もはや、異邦人と同じように歩んではなりません。彼らは愚かな考えに従って歩み、知性は暗くなり、彼らの中にある無知とその心の頑なさの為に、神の命から遠く離れています。一中略一だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっていく古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神に象って造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません」(エフェソ4章17～24節)。ここで言われている「古い人」は、ガラテヤ書で言われる「肉の望む」生き方をしようとする私達です。それは、動物的な本能だけで生きようとする私達、あるいは、この世の事だけを考えて生きる私たちとも言い換えることができます。私達が、そのようなレベルに堕ちて行かないように、私たちは常に祈る必要があります。それは、私たちの現実と福音の理想を統合する為です。ただ聴くだけの人にならない為です。

パウロは、次のようにも言っています。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」(Iテサロニケ5章16～18節)。私達が、常に「古い人」から「新しい人」へと変わって行くことができるよう、絶えず祈って行くことができますように、必要な恵みを願いましょう。

拡大信者会議事録 平成27年2月1日(日) 11時40分～12時22分

祈り テロ撲滅と世界平和



1. マホニ神父様の追悼ミサ 2月15日10時のミサ

ミサ後、偲ぶ会を開催したい。写真があればお借りしたい。いつ、どんな時の写真か裏に鉛筆書きで記入していただくと助かる。写真はお返しします。

2. バザー 5月10日(日)

第1回目のバザー委員会を2月8日(日)10時のミサ後に行う。

3. 笹丘教会の組織の「可視化」

具体的な仕事内容もわかる組織表を作成する。他教会の組織図を参考にする。

4. 防災計画

5. 名札をつける件

- ・光が丘では、地区、霊名、名前が書かれた名札を使用している。
- ・笹丘に所属していない人も来ているので、名札のない人は入りづらくなるのでは？
- ・他の教会で、名札を用意していたが、しなくなったところもある。
- ・会議などで必要を感じることはあるが、ミサ時に名札を付ける意味はあるのか？
- ・ミサを受けて、すぐ帰る。特に人の名を知る必要もないし、自分は名札を付けたくない。
- ・希望者がつけるようにしたらどうか？
- ・社会の流れに乗るのではなく、時には逆行する必要がある時がある。信者同士関心を持って、家族になっていくことが教会の目標。

6. 2月18日(水) 灰の水曜日(2月15日までに今年の枝を持って来る)

4月5日(日) 復活祭 復活祭に先立って、遠方にいる子どもたちに送るためのカードを作る。

7. 成人のミサ

- ・1月第一日曜でなく元旦にしてはどうか？
- ・浦上教会の成人式は元旦だったのに3人しかいなかった。家族で成人になったことの意味を伝える必要があるのでは？
- ・成人のミサの案内はできるだけ早いほうがいい。
- ・来年から、元旦と成人の日の前日(日曜)成人のためのミサを行う。



2015 新年会

1月18日(日)に新年会が開かれました

新しい年に神の国の平和を共に



2014年のみんなの「あゆみ」を
スクリーンで。

ソーメン流し、長崎巡礼は楽し
かったね

い年に神の国の平和を共



白壁さん
「今年はちよつ
と難しいよ」



フィリピンの姉妹たちはア
ップテンポの楽しい踊りを
披露してくださいました



ますますハーモニカの腕前？唇前？
に磨きがかかった川上さん



尾崎先生と笹丘ファミリア合唱団
BeLieve「かならずぼくがそばにいて・・・」
とてもいい歌でした



アーメン ハレルヤ～
アーメン ハレルヤ！！

編集後記



このところ、国内外で悲惨な事件が相次ぎ、人の命の重さや儚さを考えさせられている。東北の地震の時も、現地に出向いてボランティアも出来ず、申し訳なさや無力感を感じたことだったが、イスラム国のニュースには、遠い海外ということもあり、心が痛むばかりで何も出来ないーという無力感がなおいっそうつものった。

後藤さんの悲報の翌日、読売新聞の編集手帳で「命を大切にすること、とは何も眉間にしわを寄せて実践することではない。日常のささやかな喜びで心を満たすことも、命の立派な発露である」という文を読んだ。

不機嫌な顔をせず笑顔でいること、周りの人に親切にすること、家を整え家族のために美味しい料理を作ること・・・そんな身近な範囲で幸せと平和を作り出していくことが、私たちにできるささやかではあるけれど“世界平和”への第一歩であるのかもしれない・・・そう信じたい、と思った。

(F.K)